

県内大学生ら SNSを監視

デマ情報 許さない

新型コロナウイルスをめぐるインターネット上のデマ情報は許さない。県内の大学生でつくるサイバー防犯ボランティア「KC3」が12日、熊本市西区の崇城大でパトロールを実施。「一番流行するのは5月ごろ」など真偽不明の書き込み36件を確認した。

生9人が参加。パソコンに目を凝らし、会員制交流サイト（SNS）の内容を細かくチェックした。この日だけで「欧州人だけは感染しない」「予防にはキムチやアロマミストが効果がある」などといった根拠のない書き込みを見つけ、県警に報告した。

た新型コロナウイルスによる感染者は世界で増加。ネット上では、「感染した中国人が関西空港で逃走した」などのデマ情報が拡散し、世界保健機関（WHO）は、根拠の無い情報が大量拡散する「インフォデミック」が起きると指摘する。

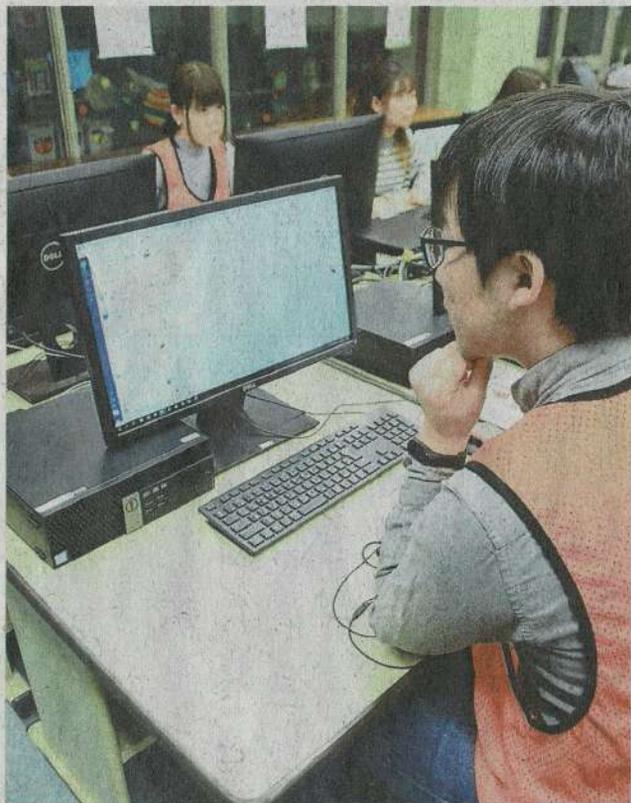
パトロールには、大学 中国・武漢市で発生し

崇城大3年の藤本晴也

さんは「多くの感染者が出ている中、不安をおおる書き込みやデマ情報に便乗するのは慎むべき」と語った。

KC3には、同大を含め、熊本学園大、東海大、県立大の学生計68人が所属。熊本地震や北海道地震など大災害の際もデマ情報を監視してきた。

（藤山裕作）



新型コロナウイルスに関するインターネット上の書き込みに目を光らせる「KC3」のメンバーたち

＝12日、熊本市西区の崇城大